

初めて **KeepPer** を取り扱う方用

フレッシュキーパー

FRESH KEEPER

フレッシュキーパー
作業マニュアル

KeepPer技研株式会社

フレッシュキーパーで使用するツール

STEP.2 脱脂工程で使用

- 燻ツヤ
- 燻ツヤ専用小分けボトル
- スポンジ 青



STEP.3 ガラスコーティングで使用

- ダイヤモンドキーパーケミカル
- スポンジ 黄
- ダイアクロス
- 蓄圧式水スプレー



STEP.4 ECOプラスレジンコーティングで使用

- ECOプラスレジン
- ECOプラスレジン用スポンジ
- レジングクロス



- キーパークロス



- EXライト(推奨)



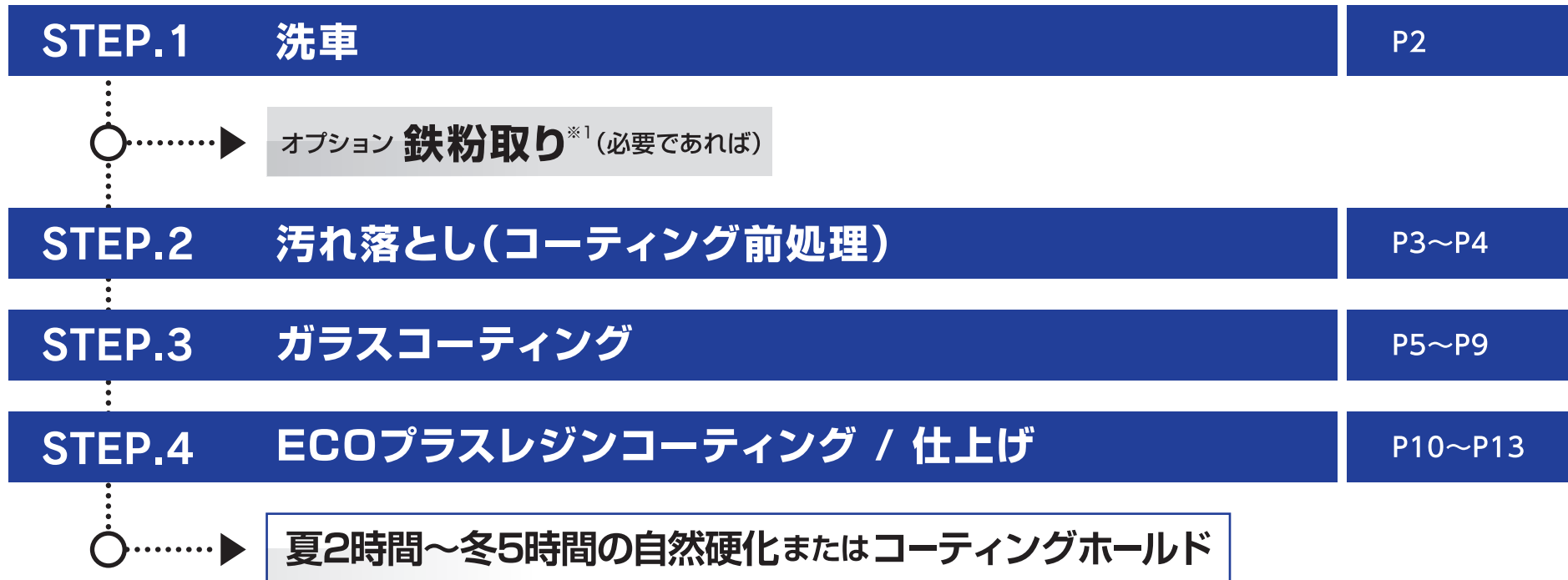
- 快洗Taoる



- キーパーチェックボード(推奨)



フレッシュキーパー 作業の流れ



⚠ 注意:アドバンスドライブのLiDAR表面にはボディークートを施工しないでください。
撥水コーティング剤がLiDAR表面に付着すると、雨天時にセンサ表面に細かな水滴が発生し、センサーが汚れと誤検知され、「LiDAR 一時使用できません」と表示される場合があります。(レクサス「LS」・トヨタ「ミライ」等)



(写真) フロントナンバー下のLiDAR

STEP. 1 洗車

① 手洗い又は、洗車機で水洗いをします



参考

- 経年車の場合、汚れに応じて下記の専用ケミカルをあらかじめかけておくとその後の前処理の作業効率がよくなります。



「虫」汚れには

インセクトリムーバー

使用するツール

インセクトリムーバー
(ボディ・ガラス面の強力虫取り剤)



虫が付いている箇所に水をかけ、インセクトリムーバーをスプレーする。

「ピッチ・タールの汚れ」には

タールリムーバー

使用するツール

タールリムーバー
(ピッチ・タールクリーナー)



ピッチが付いている箇所に水をかけ、タールリムーバーをスプレーする。

「ホイールの油汚れ・ブレーキダスト」には

ブレーキダストクリーナーB.D.C

使用するツール

ブレーキダストクリーナーBDC
(自動車用ホイール洗浄剤)



B.D.Cをホイールの中心から噴き付け、汚れが浮いてきたら高圧スプレーで洗い流す。

※ホイールコーティングをする場合は、「ホイールクリーナー」で前処理を行います。



STEP. 2 汚れ落とし(コーティング前処理)

洗車後、ボディが濡れた状態で作業を行う

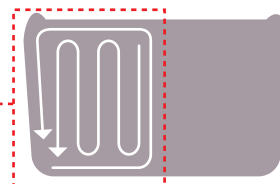
① 「爆ツヤ」を「スポンジ 青」に適量取る

*太線1本

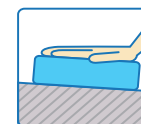


② ボンネット半分位の面積に
一定方向に隙間なく
フチまで塗り広げる

*塗り広げる時の
スポンジの動き



*塗り広げる時の
スポンジの押さえ方
支えるように
軽く押さえる。



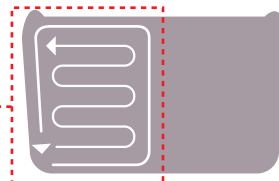
③ 3スパンまで①②の作業を繰り返す



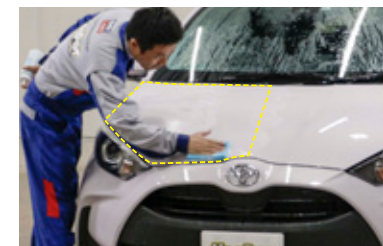
STEP.2 汚れ落とし(コーティング前処理)

- ④** 1スパン目に戻って、
塗り広げた塗装面を
軽くこする(汚れを動かす)

*軽くこする時の
スポンジの動き



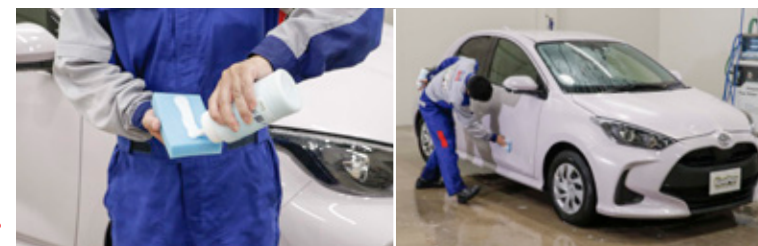
*塗り広げる時の
スポンジの押さえ方
支えるように
軽く押さえる。



- ⑤** ボディ全体に①～④の作業を行う

⚠ 注意:

- 作業中ボディが乾きそうな時には、水をかけて乾かないようにすると作業が早くすみます。(乾いても塗装に害はありません)
- ガラス面に撥水加工されているお車の場合、撥水効果が落ちることがあります。液ダレしないように注意してください。



脱脂
工程の
流れ

右前ルーフ→右後ルーフ→トランク→
左後ルーフ→左前ルーフ→左ボンネット→
右ボンネット→右フロントフェンダー→
右前ドア→右後ドア→右リアフェンダー→
リア周り→左リアフェンダー→左後ドア→
左前ドア→左フロントフェンダー→
フロント周り



- ⑥** 「爆ツヤ」をしっかりと洗い流す

👉 参考

- 隙間や細かい部分を
特にしっかりと洗い流します。



次のページに続く

STEP. 3 ガラスコーティング

塗装面が濡れた状態で作業を行ってください。

炎天下を避け、日陰でボディを冷まして作業をしてください。

⚠ 注意:

- 天下やボディが熱い状態で施工すると急激な反応により、塗りムラや拭きづらくなるといった現象が出る場合があります。ボディが熱い場合は、予め水をかけるなどして、よく冷ましてから施工してください。



① フロントガラスの上部にタオルを当てておく

👉 参考

- ケミカルを含んだ水がフロントガラスに垂れないようにタオルを当てておく。もしダイヤモンドキーパーケミカルがガラス面についてもクロスで拭けば取れます。



② 水に湿らせ固く絞った「スポンジ(黄)」に「ダイヤモンドキーパーケミカル」をスプレー

👉 参考

- 飛散した「ダイヤモンドキーパーケミカル」が付着しないよう、車に背を向けて、スプレーノズルと「スポンジ 黄」を近づけてスプレーします。

*最初は2往復
(Wの字)



*以降は1往復
(Vの字)



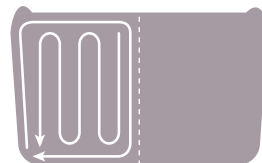
STEP.3 ガラスコーティング

③ ボンネット半分位 一定方向に「隙間」なく フチまでしっかり塗り広げる。

👉 参考

- スポンジ（黄）がボディの水分を含んできたら、絞ってダイヤモンドキーパーケミカルを足してください。
- スポンジの動きが重く感じたら「ダイヤモンドキーパーケミカル」を足してください。
- 1スパンの面積をボンネット半分の面積よりも広くしないでください。（被膜として必要な厚みが確保できません）

*スポンジの動き

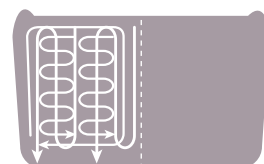


*スポンジの持ち方
スポンジを支えるように
軽く押さえます。



④ ③で塗り広げた範囲を クロス方向にすり込み、 ガラス被膜を定着させる

*スポンジの持ち方
手のひら全体でスポンジが
半分へこむ位の力で押さえる

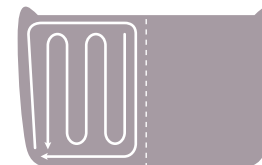


⑤ 1枚目の固く絞った「ダイヤクロス」で 拭く

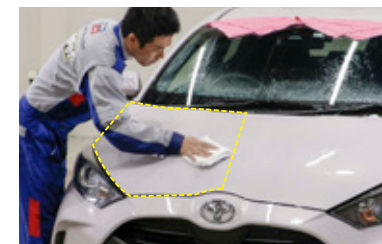
👉 参考

- ケミカルが硬化する前に拭き上げてください。

*クロスの動き



*クロスの持ち方
クロスのカドを親指で
ロックするように挟む



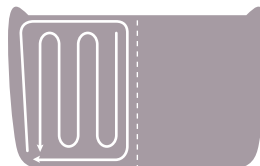
STEP.3 ガラスコーティング

⑥ 2枚目の乾いた「ダイヤクロス」で仕上げる

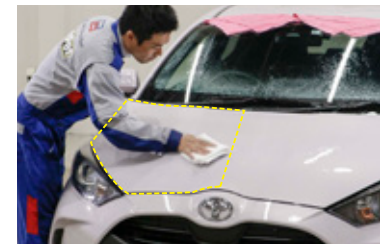
👉 参考

- 塗布した面積よりも、少し広く拭くことでキレイに仕上がります。

*クロスの動き



*クロスの持ち方
クロスのカドを親指で
ロックするように挟む



⑦ ボディ全体に①～⑥の作業を行う

⚠ 注意:

- 常にボディが濡れた状態で作業をしてください。
ボディが乾きそうなときは水スプレーを使ってボディを濡らしてください。
- ウィンドウガラスの水滴は乾く前に拭き取ります。



ガラスコーティングの流れ

右前ルーフ→右後ルーフ→トランク→
左後ルーフ→左前ルーフ→左ボンネット→
右ボンネット→右フロントフェンダー→
右前ドア→右後ドア→右リアフェンダー→
リア周り→左リアフェンダー→左後ドア→
左前ドア→左フロントフェンダー→
フロント周り



STEP.3 ガラスコーティング

8 エアーガンでタオルで拭けない 「隙間」の水を飛ばす

👉 参考

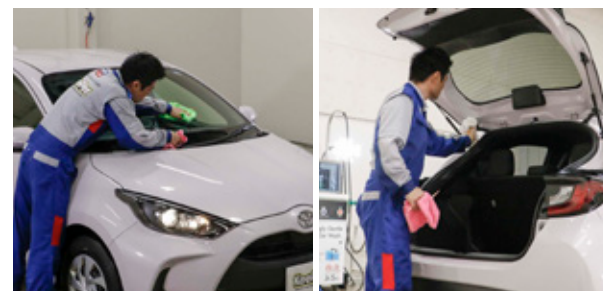
- ドアミラー、ドアノブ、ワイパー周り、バイザー内側、給油口、アンテナ、ホイール・タイヤ、フロントグリルは、特に念入りに行います。



9 ボディ、窓、ステップ、 ボンネット裏の水を拭き取る

⚠️ 注意:

- ステップ、ボンネット裏は砂やホコリ等が付着するので、別のタオルを使用してください。窓ガラス、ボディで使用するとキズの原因になります。

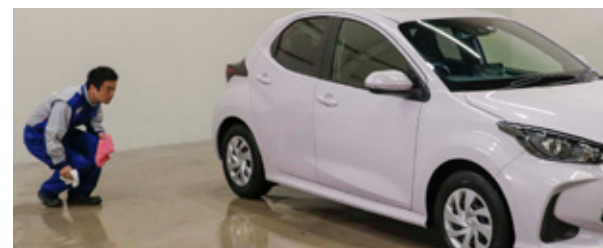
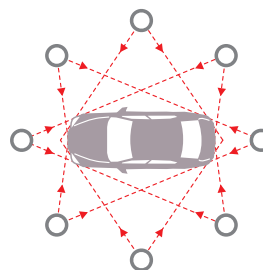


10 拭き残しなどを確認

施工を終えたら、いろいろな角度から施工車を見て、拭き残しがないか確認します。

👉 参考

- 1m位離れたところから角度を変えてチェックします。



STEP.3 ガラスコーティング

ワンポイントアドバイス

●スポンジの正しい押さえ方 塗り広げて被膜を形成させる時



手に力を入れずにボディに置く。



そのままの感触でスポンジの上に乗せる。



そのままの状態ですり広げる。

被膜を定着させる時



指先を体の内側へ向けるように手首を曲げる。



スポンジが半分へこむ程度、手のひらで押さえる。



リズムカルに力を入れて定着させる。

●拭き残しが取れない場合は…

ダイヤモンドキーパーケミカルを黄スポンジに少量付け、その部分を軽くこすってから、速やかに拭き取りましょう。

●飛散したダイヤモンドキーパーケミカルがボディ以外に付いた場合は…

ウィンドウガラス編

窓用クリーナーなどを、キーパークロスに付けてこすると簡単に落ちます。

ゴム、プラスチック編

湿らせて固く絞ったキーパークロスで拭き取ります。

× NG



つまむように持つ。

× NG



押さえる力が均等でなく、塗装面に均等に接していない。

STEP. 4 ECOプラスレジンコーティング

塗装面が乾いた状態で作業を行ってください。

① 「エコプラスレジン用スポンジ」に「エコプラスレジン」を適量つける

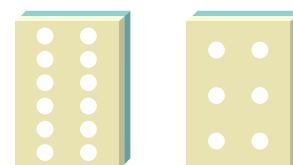
⚠ 注意:

- エコプラスレジンは、開封後も冷蔵(凍)保管で36時間後も使用可能です。

*キャップの開け方
下に押し込みながら
反時計回りに回します。



*最初は12滴 *以降は6滴

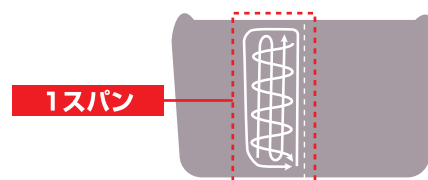


② ボンネット1/4位の面積に タテヨコに隙間なく フチまで塗り広げる

👉 参考

- 「エコプラスレジン用スポンジ」の動きが重く感じたら「エコプラスレジン」を足してください。
- 1スパンの面積をボンネット1/4よりも広くしないでください。(被膜として必要な厚みが確保できません)

*スポンジの動き



*スポンジの持ち方
スポンジを
軽く掴むように持つ

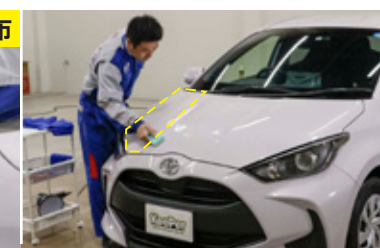
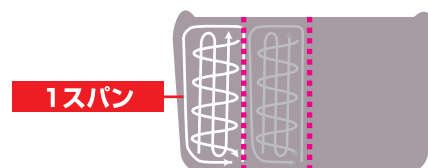


③ とんりのスパンに、 ①～②の作業を繰り返す

👉 参考

- とんりのスパンと少し重なるようにして隙間なく塗り広げてください。

*スポンジの動き



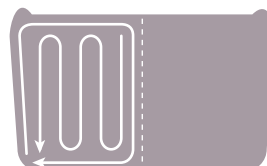
STEP.4 ECOプラスレジンコーティング

④ 1枚目の乾いた「レジncクロス」で クロスの面を換えながら2回拭く

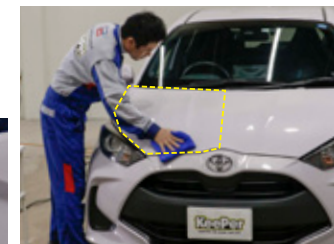
👉 参考

- 「ECOプラスレジン」が乾く前に速やかに拭き上げてください。
- 拭き取りにくくなったら、「レジncクロス」を換えてください。
- 塗布した面積よりも、少し広く拭くことでキレイに仕上がります。

*クロスの動き



*クロスの持ち方
クロスのカドを親指で
ロックするように挟む

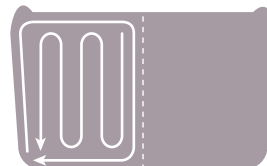


⑤ 2枚目の乾いた「レジncクロス」で クロスの面を換えながら2回仕上げ拭き

👉 参考

- クロスは面を換えて拭き上げてください。
- 「レジncクロス」はどちらの面を使用しても仕上がりに差はありません。

*クロスの動き



⑥ 1パネル毎に仕上げ、 1パネル毎に拭き残しがないか確認

⚠️ 注意:

- 拭き残しが出来ると、拭き取りにくくなるため拭き方は、1スパンずつ確実に仕上げる。

👉 参考

- 拭き残しが確認しやすい「チェックボード」 「EXライト」の使用を推奨します。
- 拭き残しがないければ、余計に拭く必要はありません。



●チェックボード



●EXライト



STEP.4 ECOプラスレジンコーティング

7 ボディ全体に①～⑥の作業を行う

⚠ 注意:

- エンブレムやドアノブなど、細かな部分に「ECOプラスレジン」が入り込まないように注意してください。
- もし「ECOプラスレジン」が隙間に入った場合は、エアーガンで吹き飛ばしてください。



エコプラスレジンコーティングの流れ

右前ルーフ→右後ルーフ→トランク→
左後ルーフ→左前ルーフ→左ボンネット→
右ボンネット→右フロントフェンダー→
右前ドア→右後ドア→右リアフェンダー→
リア周り→左リアフェンダー→左後ドア→
左前ドア→左フロントフェンダー→
フロント周り



※作業の途中で、拭き取りにくくなったら「レジנקロス」を換えてください。

※作業の途中で、塗り広げにくくなったら「エコプラスレジン用スポンジ」を換えてください。

STEP.4 ECOプラスレジソコーティング

8 仕上がり確認

👉 参考

- 拭き残しがいないか、いろいろな角度で確認。
- ボディは拭き残しがあれば、乾いた「レソクロス」で仕上げ拭き。窓、レンズ類、樹脂パーツは、水で固く絞った「キーパークロス」で拭き上げます。

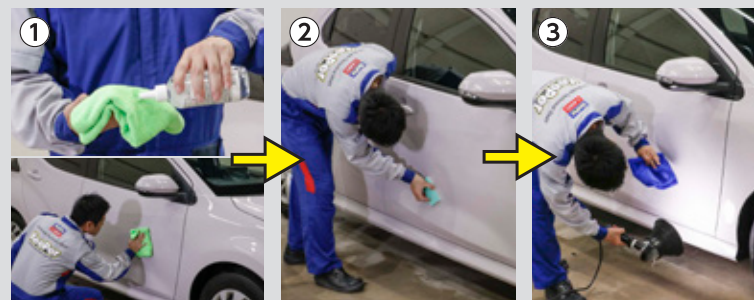
使用ツール
キーパークロス



拭き残しが固まって取れない場合は、一旦、ECOプラスクリーナーですべてを取り除いてやり直します

- ① ECOプラスクリーナーをキーパークロスに大きくWを描くように付けて、1パネル全体にタテヨコ隙間なく擦って拭き取る
- ② 拭き残しが取れたことを確認してから、一層目のダイヤモンドキーパーケミカル、二層目のエコプラスレジソを施工
- ③ 拭き残しがいないか確認し完了

使用ツール
エコプラスクリーナー



⚠️ 注意:

- 1パネル全体を行う理由は、ECOプラスレジソは施工時間が経ってから重ねて塗るとムラになる場合があるためです

9 屋内で夏2時間～冬5時間の自然硬化

もしくはコーティングホルドの作業を行う

👉 参考

- フレッシュキーパーは、すべてを施工した後、水や雨に濡れない環境ならば「夏2時間～冬5時間」の自然硬化をして完了です。すぐに室外に出して雨などに濡れる可能性がある場合は、施工後10分間置いてから「コーティングホルドの作業」を行い、完了です



コーティングホールドを行う場合

① 「コーティングホールド」の作業を行う



参考

- 屋内で「夏2時間～冬5時間」の自然硬化と、コーティングホールドで時間短縮をした場合では仕上がり品質は変わりません。

コーティングホールドを行う場合の使用ツール
(左)コーティングホールド、コーティングホールド用蓄圧式スプレー、キーパークロス
(右)純水、純水用蓄圧式スプレー、快洗Taoる



フレッシュキーパー施工後、必ず「10分間置いてから」作業する

- ① 「コーティングホールド」をボディ全体に噴霧
- ② 「コーティングホールド」を噴霧した「キーパークロス」でボディを拭き押さえる
- ③ ボディ全体に蓄圧式スプレーなどで「純水」をたっぷりかける
- ④ 「快洗Taoる」で、ボディにかけた「純水」を拭き上げる
- ⑤ 窓、レンズ類、樹脂パーツを、水で固く絞った「キーパークロス」で拭き上げる
- ⑥ 水滴残りがなければ確認



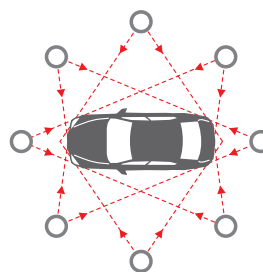
② 最終確認

もう一度、全体がしっかりコーティングがされているか、拭き残しがないか、いろいろな角度から確認します。



参考

- 1m位離れたところから角度を変えてチェックします。



オプション

鉄粉取り

塗装面に鉄粉が付着している場合のみ
行います



⚠ 注意：塗装面が濡れた状態で作業を行ってください。

鉄粉取りで使用するツール

- ピュアアップ4
- アイアンイーター
- トラップ粘土 青



STEP.1 | ピュアアップ4

- ① 洗車を行い、濡れた塗装面にピュアアップ4を
ボンネット半分程度にスプレーし
手で伸ばす**



- ② 30~40cm四方を1スパンとし
トラップ粘土(青)でタテヨコに素早くこする**

- ⚠ 注意**
- ピュアアップ4が乾かないように注意してください。

- 👉 参考**
- ボディが乾きそうになったら水をかけてください。
 - 鉄粉が取れたか、手で確認しながら作業を行ってください。



- ③ ①~②の作業を
鉄粉の付着している箇所に行う**

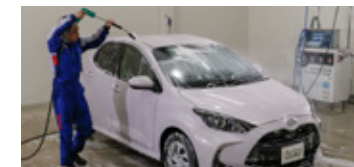
- ⚠ 注意**
- 鋭角なプレスラインは、またがないように作業してください。
 - 1度地面に落とした粘土は廃棄し、使わないでください。



STEP.2 | 洗い流し

- ① 水で洗い流す**

- ⚠ 注意**
- ピュアアップ4が乾いてこびり付いた場合は、
ファイナル1で擦ると取れます。



多量の鉄粉が付着している場合

- 用意するもの
- アイアンイーター
(鉄粉除去剤)



①濡れたボディに
アイアンイーターをスプレーする。



②日陰で乾かない程度に
つけ置く。



③洗い流し、
STEP.1・2の作業を行う。